



「声」の欄・投稿規定

★「声」の欄は読者の皆さんのお考えを、直接誌面に反映させるためのページです。皮膚病の診療に関する日ごろのご意見、新しいアイデア、ご提言などをお気軽にお寄せください。とくに日夜第一線で診療に活躍しておられる先生方からのご投稿を切望します。

★「声」の欄には、また皮膚病に関する“質疑応答”を取り上げます。お寄せいただいたご質問は、その方面の権威に依頼して適切な回答を用意し、誌上で発表いたします。とくに回答者を指名されても結構です。

★字数は一般のご投稿は1,200字以内、質問は600字以内を原則とします。

★ご投稿は郵送のほか、FAX（番号：03-6838-9222）とE-mail（アドレス：hifubyoh-shinryoh@kk-kyowa.co.jp）にても受け付けております。

★原稿には住所・氏名を明記していただきます。

されど帯状疱疹

症例：50代女性。帯状疱疹にて初診。検査でWBC 19,900/ μ l, Plt 51.4×10^4 / μ lと高値を認めた。内科へ紹介したところ、最終的に慢性骨髄性白血病の診断を受け現在も治療中。

国営放送をはじめTV番組で幾度となく取り上げられたせいか、帯状疱疹は一般に広く認知されるようになった。以前と比べ、最近は最初から自分で診断をつけてくる患者さんが増えた。「帯状疱疹ですね…そう思いました？」と話をふると「そうじゃないかと思って来ました！」と回答が返ってくる。スマホで「皮疹+痛み」を検索すれば帯状疱疹が常に上位にでてくるのだから、さもありなんといったところか。説明が簡単に済むので助かっているのは事実である。さて、帯状疱疹の誘因として、免疫能を低下させる基礎疾患の存在は昔から指摘されており、たとえば汎発性帯状疱疹は内臓悪性腫瘍のデルマドロームの一つにあげられている¹⁾。ならば汎発性でない帯状疱疹ではどうであろうか。以前に複数施設で行った帯状疱疹1,065名の統計（汎発性を含む）では、基礎疾患（糖尿病・膠原病・悪性腫瘍）の有病率は8.8%であり²⁾、

決して低くはないが高頻度ともいえない。実際には夏バテや正月疲れ、過労、ストレスが引き金になっているケースが多いのが実情である。ただ、中にはやはり病気が隠れているケースもあり、common diseaseだからといって油断はできない。実際、当院での平成22～28年までの帯状疱疹患者総計1,910名（M：795, F：1115）のうち、初診時検査で末梢血に異常値を認め、最終的に血液内科で白血病と確定診断を受けた患者は、先述の症例を含め3例を数えるが、汎発性の症例は1人もいない。患者数全体でみればだいたい630人に1人の割合になる。本邦における白血病の発症頻度は、JALSG（日本成人白血病治療共同研究グループ）による2009年の統計では年間人口10万人あたり6.3人（M：7.8, F：4.9）と報告されている（www.jalsg.jp/leukemia/frequency.html）ので、数字だけ比べるとかなり高いことになる。青森県南地域は決して血液疾患の好発地区ではない。やはり帯状疱疹には十分な注意が必要なのではないか。

石川博康

（八戸市・湊高台皮膚科）

<文 献>

- 1) 三橋善比古：日皮会誌 124(5)：917, 2014
- 2) 石川博康ほか：日皮会誌 113(8)：1229, 2003